

野球U18W杯 日本初V

馬淵監督、寺地捕手(明德)に聞く

10日まで台湾で行われた野球の第31回U18(18歳以下)ワールドカップ(W杯)で、高校日本代表が悲願の世界一を成し遂げた。20人の「侍ジャパン」を指揮し、3位の昨年に続いて2大会連続のメダル獲得に導いた明德義塾高の馬淵史郎監督(67)と、不動のリードオフマンとして代表チームを引っ張った同校3年の寺地隆成捕手(18)に、大会を振り返ってもらった。



日本代表ユニホームと金メダルとともに、師弟で記念撮影に臨む馬淵史郎監督(右)と寺地隆成(須崎市の明德義塾高等学校野球部)

馬淵監督 2大会連続指揮

2大会連続の代表監督。長打力を備えて3月のWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)を制した日本代表と比較され、掲げた「スマールベースボール」に賛否両論あった。「昨年9月の前回大会を指揮して、パワーや体格に勝る海外勢を破るには粘って守って耐えて勝つしかないと思った。不慣れた木製で150を超える打球は打てん。木製に慣れた海外勢とは違う。先づは海外の頭は越せんやから」

「耐えて勝つ強さ証明」

「寺地は打てるし、足もある。捕手で、三塁も守れるユーティリティーで、心配なかった。合宿組以外で選んだのは、球に力があって短いインニングもいける木村だけ。最後の選出は中堅丸田(慶応)。甲子園決勝で打ったし、足が速く、守りの良さも気に入った。外野は全員、自チームの中堅ばかり。選考がうまくいったから、結果に結びついたと思うよ」

「高校野球は投手と守り。ベース上の球の切れは日本が上や。しっかり守り、送るべきところを送る。全てバントするわけじゃない。野球はホームベースの踏み合い。なんぼ打たれても(生還が)1人でも少なければ勝てる。それが証明できたことが一番うれしい。監督として『馬淵なら勝てる』と任された。感謝してるよ」

「海外勢は刀流が主流。米國も、バンバン、ドラッグバントをやる。1、2番なんか打つより多かつたくらいで、先発した投手が翌日遊撃で3番や。他国はみんな、投手として投げられるんよ」

「前田が米戦と決勝に登板。計16回を1失点に抑えた。チーム結成時から彼を軸と決めていた。甲子園に出られなかった悔しさもあったと思うが、そこを意気に感じてくれたね。『俺が俺が』じゃなく、チームに溶け込んで。さすが桐蔭の真骨頂だった」

「2-1の決勝は、馬淵野球の真骨頂だった。『力はどう見ても台湾が上だが、野球は100回やっても100回勝てる』とほない。今日だけ勝て」



韓国戦の6回、本塁打の山田を迎える馬淵監督(右)＝台北(共同)

日本代表の大会成績

試合	9
打数	228
安打	69 (1位)
本塁打	1 (2位)
打点	44 (1位)
四死球	37 (3位)
三振	40 (3位)
犠打	16 (1位)
打率	0.303 (1位)
出塁率	0.399 (2位)
長打率	0.408 (1位)
防御率	1.19 (2位)

※各成績の順位は9試合行った台湾、韓国、米國との比較

U18W杯 1次リーグB組

9・1	○10-0 スペイン(六回)
2	○7-0 パナマ
3	○4-3 米國
4	○10-0 ベネズエラ
5	●0-1 オランダ

※4勝1敗で2位通過

2次リーグ

7	○7-1 韓国
8	○10-0 プエルトリコ
9	●2-5 台湾

決勝

10	○2-1 台湾
----	---------

U18W杯 高校日本代表メンバー

監督	馬淵 史郎(明德義塾)
ヘッドコーチ	岩井 隆(花咲徳栄)
コーチ	小坂 将成(智弁学園)
	比嘉 公也(沖縄尚学)
投手	武田 陸(山形中央)
	高橋 煌稀(仙台育英)
	木村 優人(霞ヶ浦)
	安田 虎汰郎(日大三)
	矢野 海翔(大垣日大)
	中山 優月(智弁学園)
	前田 悠伍(大阪桐蔭)
	森 煌誠(徳島商)
	東恩納 蒼(沖縄尚学)
	尾形 樹人(仙台育英)
	新妻 恭介(浜松開誠館)
捕手	寺地 隆成(明德義塾)
	山田 脩也(仙台育英)
	高木 一樹(聖光学院)
	緒方 連(横浜)
	森田 大翔(履正社)
	◎小林 隼翔(広島)
外野手	丸田 航河(仙台育英)
	丸田 湊斗(慶応)
	知花 慎之助(沖縄尚学)

※◎は主将

寺地がプロ志望届

日本高野連は25日、U18 W杯で高校日本代表の初優勝に貢献した明德義塾高の寺地隆成捕手が、新たにプロ志望届を提出したと発表した。寺地はプロ志望届を提出した。寺地はプロ志望届を提出した。寺地はプロ志望届を提出した。

寺地がプロ志望届を提出した。寺地はプロ志望届を提出した。寺地はプロ志望届を提出した。寺地はプロ志望届を提出した。寺地はプロ志望届を提出した。

寺地 全試合1番一塁 「代表でも明德野球できた」

「代表に選ばれた時の思いは、率直に、レベルの高いメンバーの中で通用するか不安だった。大会は(決勝まで)9試合しかない。一打席一打席を大切にしたい。甲子園に出られなかったのもあり、優勝への思いが強かった」

「一番一塁で全試合に先発出場した。『積極性を買われての一番だと思い、甘い球を見逃さないようにした』ことが良い結果につながった。調子が悪い時こそ初球からどんでん返っていた。打てなくても、チームで一番声を出すことを心がけた」

「二塁三塁で、一塁も守っていたので不安はなかった。周りにはうまい選手ばかり。必死に頑張った」

「特に、勝利に貢献できたと思う試合は、『4打数3安打だった1次リーグの米國戦。初回にヒットを打ってチームを勢いづけられたし、タイムリーで(決勝点の)4点目を取ることもできた』

「絶対にスクイズがある場面だと思って準備していたので、緊張はなかった。相手が投げた瞬間、ボールがこっちに向かってくるのはびっくりしましたけど」

「チームがまとまり、苦しい時でも声を掛け合って優勝できた。甲子園を戦った選手と一緒に野球ができて楽しかった」

寺地隆成の大会成績

試合	9
打数	28(チーム1位)
安打	8(同2位)
打点	6(同2位)
四死球	6(同2位)
三振	4
犠打	1
塁打数	11(同2位)
打率	0.286
出塁率	0.412
長打率	0.357

(聞き手＝馬場 隼)